

## 編集後記

2010年度の言語研究センター紀要『言語研究』への投稿は5編であり、例年に比べて規模の小さい紀要となった。これは、2010年度から、研究センターの所員の研究成果発表の場として『神奈川大学言語学研究叢書』が発刊されることとなったことと関係する。

『神奈川大学言語学研究叢書』の記念すべき第一号は、言語研究センター研究グループを母体とする「神奈川大学共同研究奨励助成プロジェクト—統語論的アプローチと語用論的アプローチによるモダリティの対照研究—」の研究成果、『発話と文のモダリティ—対照研究—』（武内道子・佐藤裕美編、2011年3月）である。2010年度、所員の一部は、この叢書の発行に全力を尽くすこととなった。

言語研究センターは、現在70名の所員が所属し、7つの研究グループを中心として活動を行っている。今後とも、紀要、叢書ともに、個人あるいは研究グループの研究成果発表の場としての役割を果たしていきたいということが、言語研究センター所員一同の念願である。紀要および叢書刊行に向けて、今後ともご支援を賜りたい。(T)